

弓道人の日常の心掛け（１）

５、行射

- ・公設の道場で、催物前（ものまえ）等、四つ矢を持ち（団体）で鑄込み練習をしている人達を見ますが、他の人達に失礼になるので遠慮すべきでしょう。
- ・自分の所属以外の道場に遠征したときは、決して四つ矢を引かず、一手（２本）とすること
- ・射込みは決してしない。とくに師と同じ的に立たない。
- ・「何本打った」等の言葉は使わない「何本ひいた」「何射した」などと言う。

６、指導を受ける

- ・講習会等で指導を受けるときに反論・言い訳は謹む。

７、指導する

- ・人に教えたがる人が多いが。みだりに人に教えたがらない。
特に上位者がおられるときは慎み、上位者の指示に従う。

８、見取り稽古

- ・上位者の矢乗りを見ることはやめる（依頼されれば別）
- ・師範（自分の師や範士級）の行射を拝見する時は、必ず坐して拝見する。
このとき正面からは拝見しない。ただし、特に許しがあれば立ってでも、正面でもよい。

９、心掛けとして特に・・・

- ・「稽古をば晴れにするぞとたしなみて、晴れをば常の心なるべし！！」
- ・弓は心で引くものです。会で心にゆとりが持てるようになりたいものです。
- ・稽古は基本を重視し、的中のみを考えた技術に偏らず、心技を一体として修練することを忘却しないように。

備考

- ・この資料は、範士九段 鴨川乃武幸 先生が先師や先輩の方々から教わってきた事を弓道誌に特別寄稿したものです。
- ・全てのマナー項目を網羅したものではありません

以上